

学力調査の結果および今後の学校の取り組み

このたび、5年生を対象とした基礎基本定着状況調査および6年生を対象にした学力・学習定着状況の結果をまとめることができました。なお、昨年度の調査結果とくらべ、平均の通過率（正答率）は伸びており、課題の改善はすすんでおります。しかし、「話の要点を聞きとる力・話す力」や「多様な文章を深く読みとる力」、「図形の特徴や二つの量の関係を見出し説明する力」などに課題がみられました。

また、今回、学力の定着状況と生活・学習実態の関係が明らかになりました。生活実態などの改善を図ることが、学力の定着を推しすすめるとともに、児童自身の「できる感」などを高めていくことができることが分かりました。

国語の学力の定着状況について

漢字を正しく読み書く力、へんやつくりの構成、説明的な文章の要点や文章構成についての理解力は、正答率が高い。

一方、話の要点を聞きとる力・話す力、文章のあらすじや主題、構成の工夫を読みとる力、目的や意図に応じて自分の考えをまとめたり、話したりする力は、正答率が高いとは言えない。

これらの力の基礎をはぐくむために

「吉島夕仏」(1年～4年・ひまわり)や国語の時間、朝や帰りの会などを中心にして、目的をもって聞く話す・文章を書く技能、習慣化を高める。

全校で、小テストを継続実施するとともに、児童個々が目標を定めて繰り返し学習ができるよう個別の支援・指導の充実を図る。

全校で、読む力や楽しさを育て味わわせることにより、多様な文章を読み味わうための読書活動の充実に一層取り組む。

算数の学力の定着状況について

四則計算を正しく行う力、式のつくり・表やグラフを読みとる力は、正答率が高い。

一方、四角形など図形の特徴を見つけたり作図したりする力、身近な

ものの面積や重さを予想し正しく計測する力、式の意味や計算の結果を説明する力は、正答率が高いとは言えない。

これらの力の基礎をはぐくむために

「吉島タイム」(1年～4年・ひまわり)や全校で算数の時間に小テストを継続実施するとともに、児童個々が目標を定めて繰り返し学習ができるよう個別の支援・指導の充実を図る。

全校で、学習課題の設定を工夫するとともに、数えたり計測したり、作図したりするなど具体的な活動を通して、学習の動機付けや自力解決・集団解決する活動の促進を図る。

全校で、学習集団づくりをおし進めることにより、児童がさまざまな考え方を出し合い学び深める活動の充実に一層取り組む。

国語・算数の学力の定着と生活・学習状況の関係について

今回、学力の定着と生活・学習状況の関係が明らかになりました。その主なものは、

「生活リズムの定着」 「家庭学習の習慣」 「読書の習慣」
「周りの人からの認められてる感」 「自分もできる感」 など
で、これらが学力の確かな向上・定着と深くかかわっているようです。

今後、次のことを推しすすめてまいりたいと考えております。

「生活リズム調査」を実施し、児童の意識化を推進。

「家庭学習のすすめ」を発行・家庭学習の内容を検討し、児童の意欲を向上。

読み聞かせボランティアと連携した本と親しむ機会の拡充、読書環境の改善、

「読書週間」の開設を検討し、児童の意欲を向上。

「認められてる感」や「自分もできる感」を味わう機会の拡充を図り、児童の自尊感情を向上。

